

余白の部分を受け、 子どもの感性を磨く 取り組みを

認定特定非営利活動法人グリーンバレー理事長

大南信也 おおみなみ・しんや

徳島県東北部の山間地に位置する神山町^{かみやま}の出身。スタンフォード大学大学院修了。帰郷後、神山町国際交流協会を設立し、住民主導のまちづくりを推進する中、同協会の改組により、2004年から現職。地方自治法施行60周年記念総務大臣表彰（地方自治功労者）などを受賞。

認定特定非営利活動法人グリーンバレー プロフィール

2004年に発足。「日本の田舎をステキに変える！」という目標の下、芸術家や起業家の移住・起業支援といった多角的な地域創造を展開する。2011年には、1955年の神山町誕生以来初となる転入超過の実現に貢献した。



科学技術やグローバル化の進展により、従来の常識は“常識”ではなくなりつつあります。そうした流れは今後ますます進み、幸福をつかみやすい「安全な道」がどこにあるのか分かりづらい時代になっていくでしょう。そのため、従来は「不可能」と考えられていたことにも、積極的に向き合っていく必要があります。

そうした意欲を生み出す第一歩は、今の自分でも手の届く範囲でできる、ちょっとした改善の継続です。徐々に成功体験を積み重ね、自分の成長を実感できるようになれば、新たな可能性に気づき、以前は思い浮かばなかった道も見えてきます。そうした未知への挑戦が、新しい成果につながるのです。

好きなことであれば、途中で困難に直面しても、それさえも楽しみながら積極的に試行錯誤を重ね、従来にはないアイデアが得られるでしょう。実際、グリーンバレーでは、発足以来、遊び心が豊かな仲間たちと力を合わせながら、経済だけでなく、芸術や

文化といった多方面にわたる挑戦を続け、公共事業に頼らない町づくりを進めてきました。それができた大きな要因の1つは、グリーンバレーがNPO法人であることだと考えています。短期的な成果は求められない「余白」の多い組織の方が、「ワクワク感」を追究しやすく、新たな道の発見につながると思うのです。

10年後、20年後の未来を担う子どもを育てるためには、長期的な展望を持つ必要があります。教育現場でも、教科学力に直接的にはつながら

なくても、「余白」の部分を受けたい方がよいと思います。例えば、子どもの豊かな感性を涵養するために、絵画や音楽などの芸術作品に日常的に接することができる環境を整えてはいかがでしょうか。また、先生方にも、余白の部分を持ち、授業改善を始めとする新しい取り組みに挑戦していただきたいと願っています。そうした大人の姿を通じて、子どもも自分の長所、さらには自分を取り巻く環境や地域の魅力に目を向け、探究するようになるのではないのでしょうか。

近未来への布石 神山アーティスト・イン・レジデンス



国内外からアーティストを毎年3～5人招き、神山町に滞在しながら作品を制作してもらう取り組み。アーティストは、滞在期間中、地域の保育所や小中学校などの課外活動の講師を担当。制作中の作品や創作テーマなど、自身の芸術活動にかかわる内容の体験学習を通して、子どもたちと交流する。写真は、保育所で行われた切り絵・貼り絵のワークショップの様子。写真左の黒いズボンの女性がアーティスト。